

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.3/28(月) ~ R4.4/3(日)

令和4年第13週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	6687人	6282人	-	-
	② 対人口10万人	434.2人	407.9人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	1.06	0.94	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		95%	94%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		44.8%	49.0%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		4/3現在	3/27現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	121人	138人	-	-
	確保病床数	481床	477床	-	-
	病床使用率	25.2%	28.9%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	3人	10人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	4.3%	14.5%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	5466人	5123人	-	-
	⑨ 対人口10万人	354.9人	332.7人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	4/3現在	3/27現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	2.2%	2.7%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果 (川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載)

	直近1週間 R4.3/28 ~ R4.4/3	前週 R4.3/21 ~ R4.3/27	累計 R3.3/11 ~ R4.4/3
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	0件	0件	626件
ο株 (オミクロン)	16件	31件	559件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、令和4年第1週（1月3日～9日）から第5週（1月31日～2月6日）にかけて、新規陽性者数の急速な増加がみられました。第6週13,960人をピークに第12週6,282人まで、6週連続して減少しましたが、第13週（今週：3月28日～4月4日）は6,687人と増加に転じています。

入院患者は第7週335人をピークに、第13週（今週）121人まで6週間連続して減少しています。入院中の重症患者数は第8週30人をピークに、第13週（今週）3人まで減少しています。

療養者数（入院・自宅および宿泊療養者数）は、第5週17,136人をピークに第8週9,667人と3週連続して減少し、第9週は9,885人とやや増加しました。第10週より再び減少し、第12週5,123人と4週連続して減少となりましたが、第13週（今週）は5,466人と増加になっています。

ステージ分類は、第12週はステージⅣが引き続き4/6項目ですが、ステージⅢが2/6項目から1/6項目と1項目減となり、第13週（今週）は第12週と同様となっています。

<感染の状況：直近1週間>

① 新規陽性者数は、昨年末の微増傾向に続いて令和4年第1週522人から、第2週2,569人→6,882人→12,534人→13,617人と急増しました。第6週13,960人をピークとして、第7週12,983人→10,908人→10,205人→8,675人→6,679人→6,282人と6週連続して減少しましたが、第13週（今週）は6,687人と増加となっています。

② 対人口10万人あたりの新規陽性者数も、①と同様昨年末の微増傾向に続いて、令和4年第1週33.9人から、第2週166.8人→446.9人→813.9人→884.2人と急増し、第6週906.5人をピークとして、第7週843.1人→708.3人→662.7人→563.3人→433.7人→407.9人と6週連続して減少しましたが、第13週（今週）は434.2人と増加しています。

ステージ分類は、第1週から第13週（今週）まで13週連続してステージⅣのままとなっています。

③ 前週との増加比は、昨年末に微増しながらも1.0以下でしたが、令和4年第1週18.0、第2週4.92と急増しました。第3週から2.68→1.82→1.09→1.03と減少が続き、第7週に0.93と再び1.0を下回りました。第8週0.84から第9週0.94→0.85→0.77と上下し、第12週は0.94と増加したものの6週連続して1.0を下回っていましたが、第13週（今週）は、1.06と1.0を上回りました。

④ 感染経路不明者の割合は、昨年第52週の72%から、令和4年第1週68%→79%→79%→85%→88%→91%→92%→91%→93%→94%→94%→95%→94%、第13週（今週）95%と高値が続き、14週連続してステージⅣのままとなっています。

⑤ 検査陽性率は、算定方法を昨年34週から変更しております（表の説明※3）。昨年末の微増傾向に続いて、令和4年第1週9.4%から、第2週26.4%→39.4%→43.6%→51.1%と増加し、その後約45～55%を上下し、第13週（今週）は44.8%となっています。ステージ分類では、12週連続してステージⅣのままとなっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日4月3日現在>

⑥ 入院中の患者数は、昨年第49週は2人、第50週5人→14人→16人と微増し、年が明け令和4年第1週23人から、第2週75人→134人→216人→280人→298人と増加し、第7週335人をピークに、第8週322人→279人→215人→161人→138人、そして第13週（今週）は121人と6週連続して減少しました。

確保病床数は前週から4床増床となり、現在481床となっております。入院病床使用率は、昨年第52週3.4%から、令和4年第1週4.8%から急増し、第7週70.2%をピークとして減少が続き、第13週（今週）25.2%と6週連続して減少しました。

ステージ分類では第5週～第9週と5週連続してステージⅣとなっていたのですが、第10週～第13週

(今週)と4週連続してステージⅢとなっています。

- ⑦ 重症入院患者数は、昨年第47週～第52週は0～1人を前後し、令和4年に入って第1週は0人でしたが、第2週1人→3人→4人→11人→21人→25人→30人と増加しました。しかし、第9週25人→14人→15人→10人、そして第13週(今週)は3人と一桁台になりました。

重症者の確保病床は現在69床となっており、重症病床使用率は、昨年第47週から本年第2週の間は0%～1.4%を繰り返していましたが、第3週4.3%から増加が続き、第8週の43.5%をピークに、第9週36.2%→20.3%→21.7%→14.5%、そして第13週(今週)は4.3%と減少が続いています。

ステージ分類では第6週～第11週の6週連続してステージⅢとなっていました。第12週14.5%とステージⅢ解消となり、第13週(今週)も同様で2週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、昨年末の微増傾向から、令和4年第1週367人から、第2週1,785人→4,743人→8,677人→17,136人と急増しました。第5週の17,136人をピークとして、第6週11,274人→10,903人→9,667人と減少しました。第9週に9,885人と微増した後、第10週8,593人→6,365人→5,123人と減少がすすみましたが、第13週(今週)は5,466人と増加しました。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人も、昨年末の微増傾向から令和4年第1週23.8人から、第2週115.9人→308.0人→563.4人→1,112.7人と急増しました。第5週の1,112.7人をピークに、第6週732.1人→708.0人→627.7人と減少し、第9週は641.9人と微増しました。第10週558.0人→413.3人332.7人と再び減少しましたが、第13週(今週)は354.9人と増加しました。

ステージ分類は、第2週～第13週の13週連続してステージⅣのままとなっています。

<変異ウイルス検出状況>

今週もデルタ株の追加はなく、オミクロン株が16件追加となり、令和3年3月11日～令和4年4月3日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は626件と変わらず、オミクロン株累計は559件となっています。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリング第13週(3月28日～4月3日)は、入院患者数、重症入院患者数は減少となっていますが、新規陽性者数、入院・自宅および宿泊療養者総数は増加となっています。ステージ分類では、ステージⅣは4/6、ステージⅢは1/6項目が2週連続しています。

3月22日より川崎市を含む神奈川県および首都圏1都3県を含む全国18都道府県は、まん延防止重点措置が解除となり、全国で緊急事態宣言・まん延防止重点措置の適用地域はなくなりました。新型コロナウイルスに感染しないよう、広がりを抑えるようにするのは、市民お一人お一人の注意によるところが大ですので、これらの減少は、まさに市民の皆様の注意の現れであるといえます。

措置解除に伴い、当然ながら制限はいろいろと緩和される方向性がありますが、一方では今週の新規感染者数は増加となっています。新規感染者の数値の細かい上下に一喜一憂する必要はなく、また目下のところ市内の新型コロナウイルス感染者のための病床は落ち着いており、一般医療もほぼ通常に行われていますが、発生状況はこれまでに減少してきたとはいえ、昨年(2022年)の第5波のピークの4,308人(第33週)を上回る6,687人となっているので、感染を受ける機会はまだ高い状況にあるといえます。感染がさらに広がらぬよう、またご自分に及ぶリスクは少ないとしても身の回りの方が感染を受けて重症者にならぬよう、基本的な感染予防に関する注意は続けられるようお願いいたします。

三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気を気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどは、様々な場において感染を受けない、感染をさせないための基本的な注意点です。市内の桜の満開はすぎましたが、木々の緑が一気に増えてきました。陽気の良い日も増えてきますが、人出と感染症の増加はつきものです。当面はやはり感染リスクの高い所や混雑する場所・時間帯は避け、少人数でゆっくりと過ごされるようお願いいたします。日常生活を

できるだけ取り戻し、それが維持できるようになるため、引き続きご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

なお、ワクチンを2回接種した人は、接種していない人に比べて入院率・重症化率は明らかに低くなることが国内外から報告されています。一方、現在使用されている新型コロナワクチンは、2回の接種を受けても、残念ながらその効果は早めに減少をしてしまうことも明らかになってきています。2回接種を受けた人は感染しても軽症で済むことが多いのですが、他の人に感染を広げることもあり、また中には中等症～重症になる場合もあるので、3回目の接種をできるだけ早く受け、ご自身の免疫を強めておくことをお勧めします。入院、ことに重症化する方のほとんどは高齢者です。現在川崎市内における65歳以上の方々の3回目のワクチン接種率は、およそ82%となっていますが、18歳以上の方々の3回目の接種率は43%です。3回目のワクチン接種は、川崎市内ではファイザー社製とモデルナ社製の2種類が接種可能となっています。副反応に関してはファイザー社製のほうがモデルナ社製より若干低く、効果に関してはモデルナ社製のほうがファイザー社製より若干高くなると報告されていますが、両ワクチンに実際上の大きな差はありません。どちらのほうでも結構ですので、早めに3回目の接種を受けられることをお勧めします。もちろん2回接種がまだの方は、早く2回の接種を終えておくことをお勧めします。